



平成21年9月19日

岡山済生会総合病院 市民公開講座

肝臓がんにならない方法・なったときの治療法

肝臓がんにならないために —慢性肝炎・肝硬変と肝臓癌—

岡山済生会総合病院 内科・肝臓病センター
藤岡真一

本日の話

慢性肝炎・肝硬変の診断

- 慢性肝炎・肝硬変の疫学・自然経過
- 慢性肝炎・肝硬変の検査・診断

慢性肝炎の治療

- B型慢性肝炎の治療方針・治療法・肝臓がんにならないために
- C型慢性肝炎の治療方針・治療法・肝臓がんにならないために
- C型慢性肝炎治療の展望

慢性肝炎とは

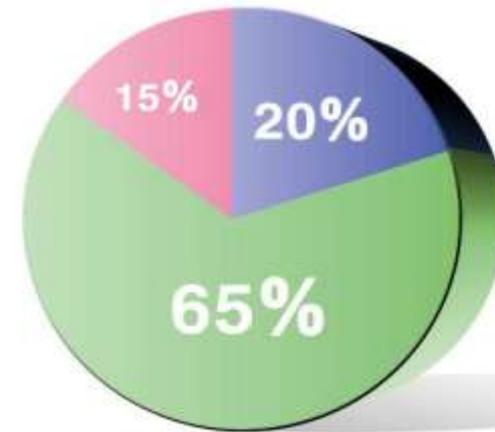
● 慢性肝炎とは

6ヶ月以上、肝臓に炎症が持続する病態をいう。実際には6ヶ月以上にわたる肝機能検査の異常

除外する病気

脂肪肝，肝硬変，
原発性胆汁性肝硬変，
など

● 原因は



■ B型肝炎ウイルス

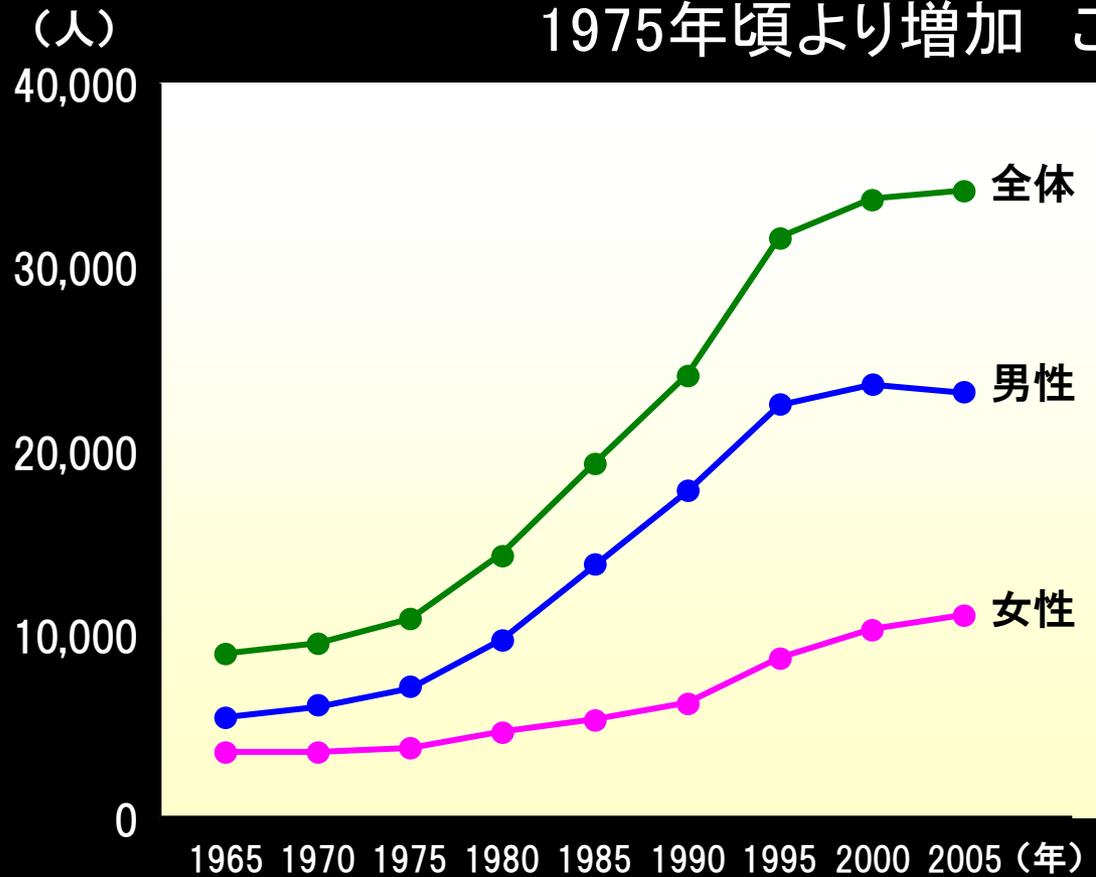
■ C型肝炎ウイルス

■ アルコール性,
自己免疫性,
その他のウイルス

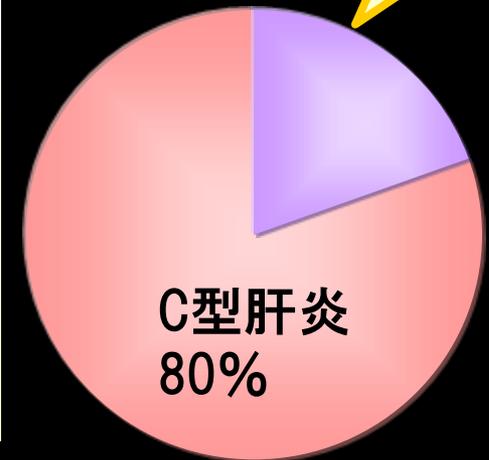
肝がんの死亡数

1975年頃より増加 ここ30年で3倍に増加

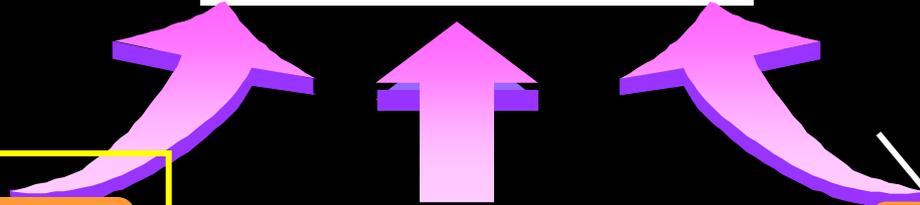
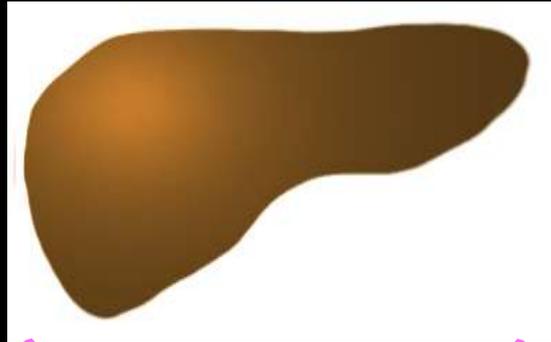
肝がんの年間死亡数



肝がんの原因の80%はC型肝炎



B型慢性肝炎の各種治療法



ウイルス増殖抑制

抗ウイルス薬

インターフェロン
ゼフィックス
ヘプセラ
バラクルード

肝庇護

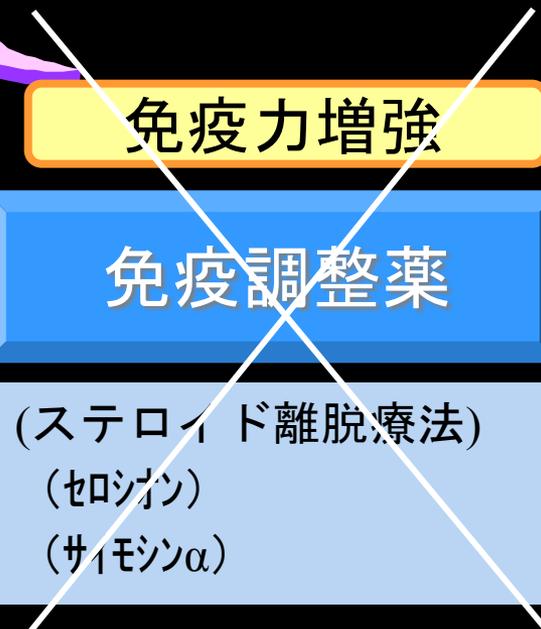
肝庇護薬

強力材ミノファーゲンジー
ウルソ(ウルソデ オキシコール酸)
漢方薬

免疫力増強

免疫調整薬

(ステロイド離脱療法)
(セロシオン)
(サイモシ α)



B型慢性肝炎に対する抗ウイルス療法

①インターフェロン治療

- ・ **インターフェロン投与期間**

従来は4-8週であったが、現在は**24-48**週投与が主流

- ・ **インターフェロン投与量**

3-10MIU、週三回投与→**自己注射が可能**となった

→インターフェロン初回投与の場合は、
短期間でも入院して導入することが望ましい

B型慢性肝炎に対する抗ウイルス療法

②核酸アナログ製剤

治療の適応

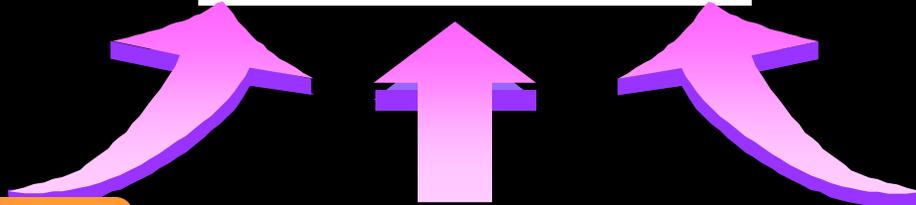
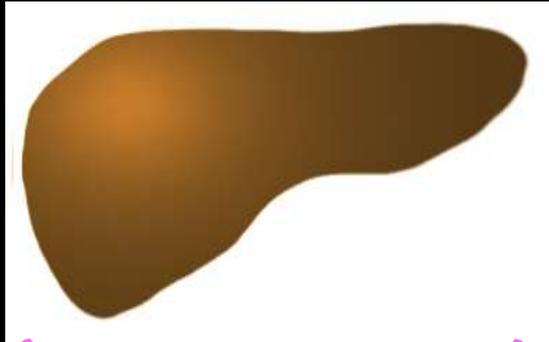
- ・ 肝硬変の回避
- ・ 劇症肝炎・肝不全進展の回避
- ・ 癌化学療法時
- ・ B型肝炎硬変
- ・ 肝移植症例

→核酸アナログ製剤投与の場合は、インターフェロンと比較して副作用が少なく、外来で導入することが可能

C型慢性肝炎の治療目標

- ① **ウイルス排除**: C型肝炎の原因であるC型肝炎ウイルスを完全に排除して、C型肝炎を根本的に治すこと
- ② **肝がん抑制**: ウイルスの排除が難しい患者さんに対しては、肝細胞の炎症と線維化を抑え、肝がんへの進展を抑制する

C型慢性肝炎の主な治療法



ウイルス増殖抑制

肝庇護

抗ウイルス薬

肝庇護薬

除鉄療法

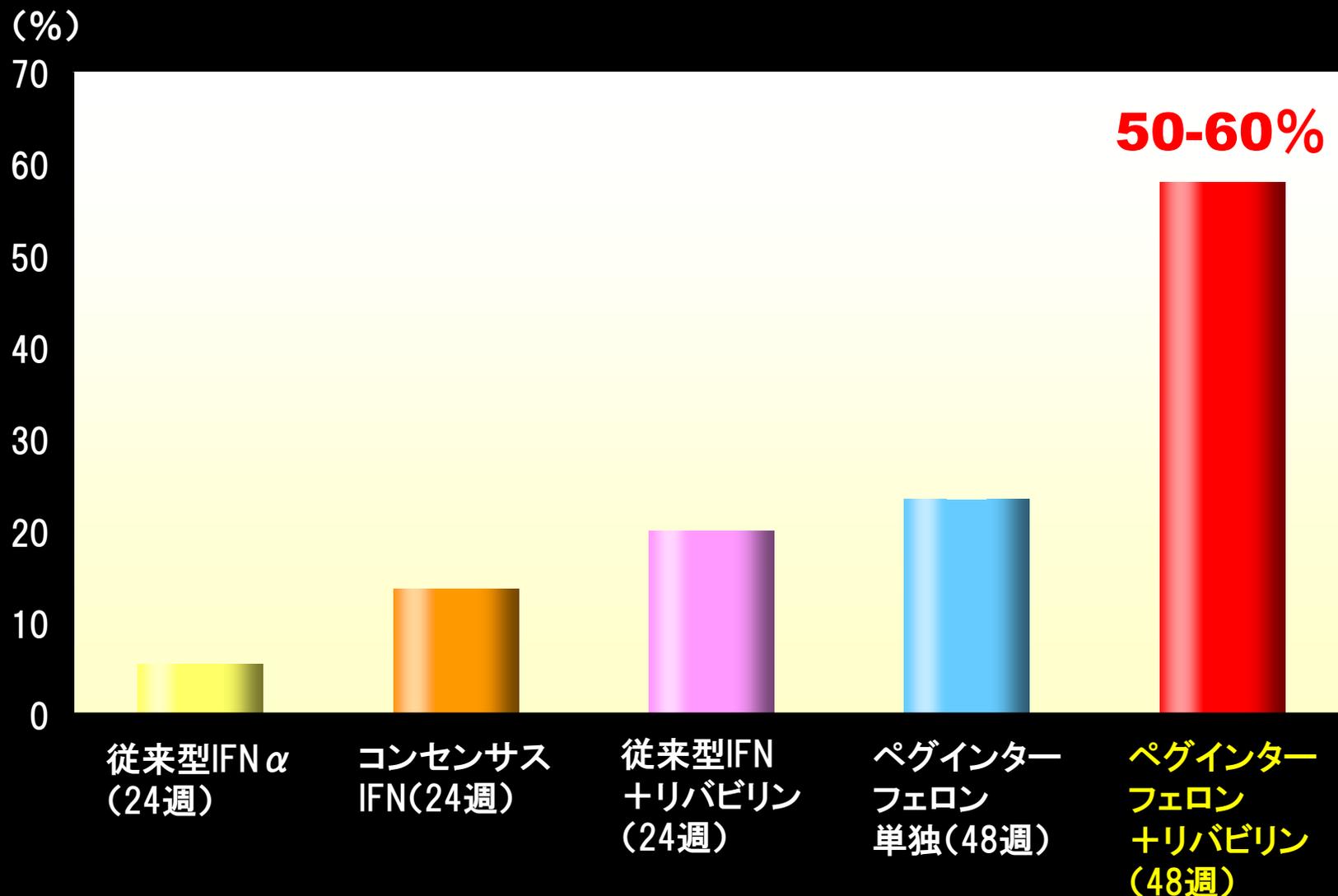
ペグインターフェロ
ン
リバビリン

強力材ミノファーゲ ソー
ウルソ (ウルソデ オキシコール酸)
漢方薬

瀉血療法
食事療法

C型慢性肝炎の治療効果の変遷

(Genotype1 高ウイルス量)



インターフェロン治療により肝癌の発生がどの程度抑えられるか？

・治療をした場合

→しない場合に比べ：約2分の1

・肝機能が正常化した場合

→正常化しない場合に比べ：約5分の1

・ウイルスが消えた場合

→消えない場合に比べ：約5～10分の1以下

本日のまとめ

肝臓癌にならないために・・・

- ・ 主治医とよく相談して、可能であれば**抗ウイルス療法**を受けましょう。
- ・ 抗ウイルス療法が難しければ、**肝機能（ALT）を安定させる治療（肝庇護療法）**を受けましょう。
- ・ それぞれの患者さんで間隔は異なりますが、**定期的な診察・採血・画像検査**を受けましょう